

# スラブ舞曲 Op.72-2

A.ドヴォルザーク

5

Alto G.1

Alto G.2

Prim G

Bass G.

Contra Bass G.  
&  
Guitarron

10

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

15

To Coda ◊

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

20

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

25

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

30

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

35

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

40

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

⊕ Coda

A.1

A.2

P.

B.

Con.G  
&  
Gr

*D.C. al Coda*

チェコの国民楽派最大の作曲家。ブラームスに認められて世に知られるようになり、1892年、95年のアメリカ滞在で名声を博した。

出版社がブラームスの「ハンガリー舞曲集」と同じ趣向の作品を依頼したことにより作曲された第1集Op.46が成功したため、第2集Op.72が出版された。原曲はピアノ連弾用で、後に作曲家自身により管弦楽に編曲された。

この第10番は特によくコンサートで取り上げられる作品で、哀愁を帯びたメロディで始まり、中間部では長調になり、ゆったりとした雰囲気をかもし出す美しい小品である。

スラブ舞曲集は第1集（作品46）と第2集（作品72）のそれぞれ8曲ずつの計16曲でできています。そのなかで最も有名なものは、おそらくロマンチックな第10番（作品72-2）でしょう。